

【取組内容】 ① 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

教育プラットフォームの活用

クラウド型の教育ICTサービスを利用して課題の配信・自主的な学習の取組を促進している。生徒は自分のペースで配信された問題を解いたり動画を視聴したりして学習を進めることで、個別最適な学びの充実につながっている。また、教師は生徒の取組状況を把握することで、生徒一人一人の学習がどこまで進んでいるかが分かり、指導の個別化に役立てている。

クラウドの活用

教科の授業や総合的な探究の時間等で、生徒がグループでプレゼンテーションを作成する際に、Microsoft Teamsを活用することで共同作業ができるようにしている。生徒は各自で作成したデータを持ち寄り、グループで共同して編集することで個別の学びから協働的な学びへとつなぐことができている。教師は作業の様子を見ながら助言を与えて、よりよい学びへと導いている。

【取組内容】 ② 情報活用能力の育成**授業における取組**

情報の授業はもちろんのこと、いろいろな科目の授業において、生徒各自のタブレット端末を用いた情報収集やレポート作成が行われている。生徒がインターネットから得た情報の信頼性を検討し、比較・整理する力の育成が図られている。また、作成したレポートを他の生徒が見る機会を積極的に設け、分かりやすく発信する力の育成にも努めた。

部活動における取組

- ・ 対戦相手のデータを分析して戦略を練ったり、自身の動きの癖などをチェックしたりすることにICT機器を活用しており、情報活用能力の育成につながっている。

【取組内容】 ④ 校務DX

デジタル採点の導入

採点支援ソフトを導入し、採点業務の時間削減につなげた。実際に測定したところ、4時間かかっていた採点業務を2時間で終わることができた。また、採点した答案は学習支援ソフトを用いてデータで返却することで印刷の手間を省き、用紙の節約につなげた。



採点画面の一例

クラウドの活用

- ・ 職員朝礼や職員会議の資料等はMicrosoft Teamsで配付し、各職員のタブレット端末等で閲覧するようにした。このことにより資料の印刷や配付の手間を省き、業務改善につながっている。
- ・ アンケートフォームを積極的に活用し、各行事の反省や学校評価の回答をフォームで送信するようにした。これにより取りまとめが容易になった。また、生徒の学習時間調査や進路志望調査もフォームで回答させ、取りまとめるためのエクセルファイルを用意することで集計を自動化した。職員による入力の手間を省き、負担を大きく減らすことができた。